

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 29 日現在

機関番号：55401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K04187

研究課題名(和文) 在日米軍基地におけるベトナム反戦運動についての研究

研究課題名(英文) Study on Anti-Vietnam War movements in military bases in Japan

研究代表者

木原 滋哉 (Kihara, Shigeya)

呉工業高等専門学校・人文社会系分野・嘱託教授

研究者番号：20259922

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、在日米軍基地をめぐるベトナム反戦運動に関して、岩国米軍基地(山口県)の近くに設置された反戦コーヒーハウス「ほびっと」を中心とする反戦運動の実態を取り上げた。

アメリカにおける反戦コーヒーハウスは、基地内の反戦米兵と基地外の反戦市民運動を結びつける役割を果たしたが、岩国においては、ベ平連の活動家が、基地内の反戦米兵と来日し日本で活動するアメリカ人反戦活動家を結びつける役割を果たした。同時に、岩国市地元の市民が集い語り合う場でもあった。

反戦コーヒーハウス運動は、ベ平連の中で、市民的不服従、非暴力抵抗のモデルでもあったし、そこに集った市民にとっては「アセンブリ」としての役割を果たした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ベ平連が担ったベトナム反戦運動は、市民運動のひとつとして評価されてきた。1960年代末の多様な社会運動のなかにおいて、反戦米兵やアメリカ人活動家と連携する反戦コーヒーハウス「ほびっと」の運動は、市民的不服従ないし非暴力抵抗として評価することによって、反戦市民運動としてのベ平連の活動をよりよく評価できる。

また「ほびっと」に集い語り合った地元市民にとっては、自分たちの人生、家族、地元社会についても語り合う空間として機能した。これは、パトラーやネグリたちが言及する「アセンブリ」として機能したと考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study deals with anti-Vietnam war movements in US military bases in Japan, especially anti-Vietnam war movements at the coffee house "Hobbit" near Iwakuni US military base in Japan.

While anti-war coffee houses in USA connected anti-war soldiers in bases and anti-war activists outside bases, anti-Vietnam war Japanese activists in Iwakuni connected anti-war soldiers in the base and American activists staying in Japan. At the same time, anti-war coffee house called "Hobbit" was the space where local residents gathered and talked.

The anti-war coffee house in Iwakuni, Japan is characterized as the place of assembly for civil disobedience or non-violent resistance.

研究分野：社会学

キーワード：反戦市民運動 市民的不服従 ベトナム反戦運動 ベ平連 アセンブリ

1. 研究開始当初の背景

研究を開始するに当たり、いくつかの条件が整い、研究を進めることが可能となった。まず、当時ベトナム反戦運動の担い手であった人びとが再会する機会があり、直接に連絡を取り、インタビューすることがより容易にできるようになった。また第二に、かつての活動家へのインタビューをきっかけとして、これまで知られていなかった一次資料に接する機会を得た。さらに第三に、日本でも活動していたアメリカの反戦団体に関係する資料をアメリカで入手することができるようになった。こうした条件を最大限に活用することによって、日本におけるベトナム戦争反対運動について、研究を進捗させることができると確信し、研究を開始した。

日本におけるベトナム反戦運動の中心的担い手のひとつであった「ベ平連」(ベトナムに平和を！市民連合)は、各地でさまざまな創意工夫を重ねていた多様性に富んでいる。それらをすべて網羅することは困難であるが、三人の研究者で分担して、いくつかの地点から調査研究を開始することはできると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、1960年代から70年代にかけて世界中で拡大したベトナム反戦運動の中で、在日米軍基地内部の反戦兵士による反戦運動とその支援活動に焦点を当て、軍隊内外のベトナム反戦運動の内実をトランスナショナルな社会運動として明らかにすることにある。具体的には、在日米軍基地のアメリカ軍兵士を対象にして日本で活動したアメリカ反戦団体(Pacific Counseling ServiceやMilitary Law Office)の活動内容を検証し、日本側のパートナーである「ベ平連」(「ベトナムに平和を！市民連合」)との協力関係を分析するとともに、軍隊内外のトランスナショナルな反戦運動を明らかにすることにある。

日本におけるベトナム反戦運動がトランスナショナルな社会運動という側面をもっているとしても、どの程度トランスナショナルな性格を有しているかは、地域によって異なる。本研究で中心的に取り上げるのは、沖縄、福岡、岩国の3地域である。沖縄は、1972年までアメリカの統治下にあつて、多くの米軍基地が集中し、日本とアメリカの間で複雑な地位を占めていた。福岡は、東京から見ると地方都市であるが、九州のなかでは中心的な地方都市であるという特徴を持っている。岩国は、海兵隊の基地があり、当時世界でも最も活発な基地内反戦運動が起きており、基地周辺に反戦コーヒESHOPが設置されるなどベトナム反戦運動にも特徴を有していた。

3. 研究の方法

資料収集および聞き取り対象者のリストアップ：すでに収集済みの一次資料と聞き取り対象者のリスト作成を行うとともに、未収集の資料と所蔵場所の確認、今後実施予定の聞き取り対象者のリスト作成を行い、「地域ベ平連研究会」を開催するときに情報を共有する。資料の収集と分析：在日米軍基地の米兵が発行していた反戦新聞、反戦米兵の活動を支援していたアメリカの反戦団体(Pacific Counseling ServiceやMilitary Law Officeなど)が作成していた内部資料について調査を行い、日本における活動の全体像と日本の反戦運動との関係について検証する。聞き取り調査の実施：アメリカの反戦市民団体の元メンバー、在日米軍基地に勤務していた元兵士に対して聞き取り調査を実施する。また、岩国、沖縄、福岡、東京など日本国内でも各地域ベ平連運動メンバーに聞き取り調査を実施する。活動の背景、日本の反戦運動との協力関係、米軍当局との関係、抱えていた課題、ライフヒストリーなど調査する。

4. 研究成果

研究期間中、新型コロナウイルスの影響により他所への移動を伴う調査が困難になり、国内および海外でのインタビュー調査、資料調査については、自粛せざるをえないことがあった。また研究会の開催も対面式ではなく、オンライン形式で実施することを余儀なくされた。そうしたなかにあつても、「地域ベ平連資料集」の復刻出版に向けて、確認・準備作業を進めることができた。復刻出版に向けて、どれくらいの資料が利用可能なのかを確認しながら、入手資料をPDFの形に電子化する作業、未入手の資料を探し出す作業、どこまでの範囲で資料集に収めるかの検討作業、内容や発行者についての調査作業などを実施することができた。地域ベ平連の復刻資料集は、すべての地域ベ平連の資料を網羅することは難しいが、福岡、沖縄、岩国だけではなく、関西や名古屋など、より多くに地域をカバーすることを予定している。

また、「地域ベ平連研究会」として、地域ベ平連の論文集出版に向けて、原稿執筆、原稿内容の検討などの作業、全体の調整作業を繰り返して、編集作業を進めている。そこでは、

沖縄、福岡、岩国だけではなく、長崎、神戸、千葉、神奈川などの地域についての寄稿を収録する予定である。

本研究のメンバーは、沖縄、福岡、岩国に焦点を当てて研究を進めた。ベ平連を中心とするベトナム反戦運動は、反戦市民運動であるとしてひとくくりにされてきた。職業や立場の違いがあっても、「市民」としての共通の立場でベトナム反戦を訴えたことが強調されてきたわけである。本研究では、それとは逆に、「市民」という共通性を強調するのではなく、地域に着目することによって、ベトナム反戦運動に参加した一人ひとりの個性から出発することができたのではないかと考えている。地域によって、近くに米軍基地があるかどうか、アメリカ人の反戦活動家が地域に常駐しているかどうか、米軍基地内で反戦活動が存在しているかどうか、つまり、トランスナショナル性や地域性の違いによって、地域のベトナム反戦運動は違いがある。さらに、異なるライフヒストリーをもつ個人がベトナム反戦運動に対して个性的に関わっていた。ベトナム反戦運動を研究するに際して、地域に焦点を当てることによって、さらに反戦運動の担い手の個性にも焦点を当てることで、「反戦市民運動」の実態に少しでも接近することができたのではないかと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 市橋秀夫	4. 巻 20
2. 論文標題 エンタープライズ寄港阻止闘争と福岡のベトナム反戦市民運動	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本アジア研究	6. 最初と最後の頁 125-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 市橋秀夫	4. 巻 18
2. 論文標題 写真史料が伝えるベトナム反戦運動：1968年北九州反戦青年委員会弾薬輸送阻止闘争の記録<調査ノート>	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本アジア研究	6. 最初と最後の頁 93-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大野光明	4. 巻 20
2. 論文標題 太平洋を越えるベトナム反戦運動の軍隊「解体」の経験史：パシフィック・カウンセリング・サービスによる沖縄での運動を事例に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館平和研究	6. 最初と最後の頁 115-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 木原滋哉	4. 巻 3475
2. 論文標題 身ぶりとしての社会運動（書評：平井一臣『ベ平連とその時代』）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大野光明	4. 巻 第25号
2. 論文標題 基地・軍隊をめぐる概念・認識枠組みと軍事化の力学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 環境社会学	6. 最初と最後の頁 35-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木原滋哉	4. 巻 3432
2. 論文標題 社会運動に対立を越える連帯を求めて (書評: 油井大三郎『自由を我らに』)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大野光明	4. 巻 1
2. 論文標題 運動のダイナミズムをとらえる歴史実践—社会運動史研究の位置と方法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会運動史研究	6. 最初と最後の頁 47-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大野光明	4. 巻 20
2. 論文標題 太平洋を越えるベトナム反戦運動の軍隊「解体」の経験史—パシフィック・カウンセリング・サービスによる沖縄での運動を事例に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館平和研究	6. 最初と最後の頁 115-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木原滋哉	4. 巻 93
2. 論文標題 鶴見俊輔・ベ平連・限界政治	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 脈	6. 最初と最後の頁 68-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木原滋哉	4. 巻 10
2. 論文標題 世界と共鳴する地域ベ平連の活動	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 P R I S M (立教大学共生社会研究センターニューズレター)	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市橋秀夫	4. 巻 10
2. 論文標題 地域のベ平連活動を追ってーオーラル・ヒストリーが広げてきた世界	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 P R I S M (立教大学共生社会研究センターニューズレター)	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大野光明	4. 巻 10
2. 論文標題 方法としての地域ー地域ベ平連研究会の試みから	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 P R I S M (立教大学共生社会研究センターニューズレター)	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大野光明
2. 発表標題 脱軍事化の実践と経験 - - 1970年代、沖縄へ渡ったアメリカ人反戦運動（パシフィック・カウンセリング・サービス）を事例に
3. 学会等名 日本平和学会2018年秋季研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木原滋哉
2. 発表標題 国境を越えたベトナム反戦運動 反戦米兵の支援運動をめぐって
3. 学会等名 日本平和学会2018年夏季研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木原滋哉
2. 発表標題 都市の非軍事化と平和行政
3. 学会等名 日本平和学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 ほびっと50周年実行委員会	4. 発行年 2021年
2. 出版社 花書院	5. 総ページ数 131
3. 書名 「ほびっと」とわたし～それぞれの50年～	

1. 著者名 大野 光明、小杉 亮子、松井 隆志	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 232
3. 書名 「1968」を編みなおす	

1. 著者名 木原滋哉（江口厚仁・林田幸広・吉岡剛彦編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 318
3. 書名 境界線上の法 / 主体	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	市橋 秀夫 (Ichihashi Hideo) (70282415)	埼玉大学・人文社会科学研究所・教授 (12401)	
研究分担者	大野 光明 (Ono Mitsuaki) (80718346)	滋賀県立大学・人間文化学部・准教授 (24201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------